

P4-6

院内がん登録データに基づく 手稲溪仁会病院における大腸がん治療の現状

伊藤早代、鈴木いづみ、山崎瑞侑、境嘉奈美

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 医療情報課



【目的】

大腸がんは日本におけるがん死亡の主要因のひとつであり、その罹患率は依然として増加傾向にある¹⁾。地域ごとのがん種別の分布や、診断・治療体制の違いを把握することは、がん対策の立案や診療体制の整備に重要である。北海道では肺がんや乳がんの罹患率が多いという傾向にあるが²⁾、手稲溪仁会病院では2008年の院内がん登録開始以降、大腸がんが例年最多となっている。今回、当院における大腸がんの治療状況を明らかにし、北海道全体との比較を通じて当院の特徴を把握することを目的とした。

【対象と方法】

対象は、2019年から2023年に当院で登録された院内がん登録情報のうち、国際疾病分類腫瘍学3.1.2版の局在コード「C18(結腸)」「C19.9(直腸S状結腸移行部)」「C20(直腸)」の症例とした。

方法は、国立がん研究センターが公開している「院内がん登録全国集計」の調査方法に従って集計用治療方法に区分して集計した情報と、「院内がん登録全国集計結果閲覧システム 施設別がん種別検索」から抽出した北海道の大腸がん情報について、がん全体における大腸がんの割合、ステージ別情報などを単純集計および比率比較により検討した。

【結果】

<大腸がんの発症件数と割合>

| | 院内がん登録 総件数 | 大腸がん登録件数 (割合) |
|-----|---------------|------------------|
| 当院 | 11,869件 | 1,863件(15.7%) |
| 北海道 | 201,530件 | 35,738件(17.7%) |

大腸がんは、当院・北海道共に院内がん登録総件数の15%以上を占めており、北海道全体における当院の大腸がんの占める割合は5.2%だった。

<総合ステージ別割合>

| ステージ | 当院 | 北海道 |
|------|--------------|----------------|
| 0期 | 536件 (28.8%) | 9,593件 (26.8%) |
| I期 | 360件 (19.3%) | 6,470件 (18.1%) |
| II期 | 378件 (20.3%) | 7,373件 (20.6%) |
| III期 | 346件 (18.6%) | 6,724件 (18.8%) |
| IV期 | 243件 (13.0%) | 5,578件 (15.6%) |

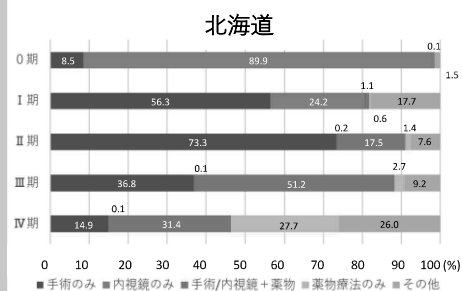
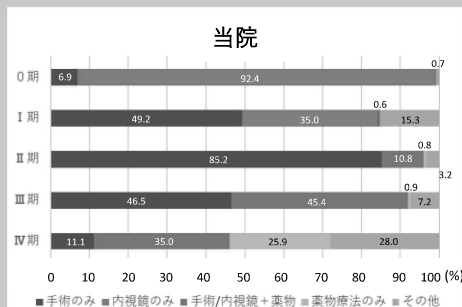
総合ステージ別割合を算出した結果、当院と北海道の両方を通して最も高かったのは、当院の0期(28.8%)だった。また最も低かったのは、当院のIV期(13.0%)だった。

<初回治療の内訳>

| 初回治療 | 当院 | 北海道 |
|-----------|------|---------|
| 手術のみ | 724件 | 13,168件 |
| 内視鏡のみ | 621件 | 10,213件 |
| 手術/内視鏡+薬物 | 285件 | 6,565件 |
| 薬物治療のみ | 69件 | 1,876件 |
| その他 | 164件 | 3,913件 |

当院・北海道共に「手術のみ」「内視鏡のみ」の件数が多かった。「その他」には件数の少ない他の治療や経過観察のみも含まれる。

<総合ステージ別治療割合>



当院と北海道では治療傾向としては同様だった。0期では「内視鏡のみ」が最も多く、当院と北海道共に初回治療割合の約90%を占めていた。I期とII期では「手術のみ」が最も多く、特にII期では当院で約90%、北海道で約70%を占めていた。

【考按】

当院では大腸がんが最も多く、また早期ステージでの発見が北海道よりやや高かった。初回治療として「内視鏡のみ」「手術のみ」が大半を占めており、これはステージ0期からI期の割合と合致している。

当院は2009年に地域がん診療連携拠点病院に指定されているが、2013年より外来診療体制が紹介予約型へと移行していることにより、スムーズに早期診断・早期治療が行われていると考えられる。

また、北海道は地域がん診療連携拠点病院が存在しない2次医療圏が複数存在するため³⁾、ステージ別の治療割合に関してもやや影響する可能性がある。

課題として、今後とも登録内容の精度向上や、データの信頼性をさらに高めると共に、他施設や地域とのさらなる比較を行い、当院の特徴や強みを明らかにすることが求められる。

【結論】

当院と北海道全体の数字を比較すると、「手術のみ」と「内視鏡のみ」は当院が北海道全体の治療割合を上回った。特に「内視鏡のみ」に該当する症例は90%以上が0期であり、改めて当院の大腸がんの治療状況を確認できた。

【引用文献】

- 1) がん情報サービス がん種別統計情報 2) 北海道オープンデータ CCBY-4.0
- 3) 厚生労働省 がん診療連携拠点病院等の一覧表